

事業名：国語力向上モデル事業
学校名：神石高原町立神石小学校
所在地：神石郡神石高原町福永798
H P : http://www5.ocn.ne.jp/~jinseki/
学級数：6学級 74名

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

①研究テーマ

「話し合う力」を育てる授業の創造
～対話活動を取り入れた指導の工夫を通して～

②研究のねらい

本校の子ども達は、コミュニケーション能力に課題がある。授業では、「話し合い活動を仕組んでも、積極的に発言する子が少ない」「友達の発言に疑問を感じても、何も言わずに分かったふりをする」「理由や根拠を示さないで、発言に説得力がない」といった様子がしばしば見られる。

昨年度、主に話し合いの態度に焦点を当てて、話し合う力を育成する取組みを行った。その結果、「相手の様子を見ながら、聞きやすい声で話す」「話す人の方を向いて反応しながら聞く」といった力を高めることができた。しかし、話し合いの運び方や、相手の発言に対する応答の仕方といった技能を身に付けることが不十分だったため、前述したような課題が残った。

そこで今年度は、国語科を中心として、対話能力を高めるための指導を工夫する研究を進めれば、コミュニケーション能力を培うことができると考えた。

(2) 研究組織・体制(省略)

(3) 研究内容

①対話トレーニングの時間を設定

・対話の練習時間を週に3回、5校時の帯タイムに設け(1回10分程度)、対話技能を身に付けさせる。

②適切な評価方法の開発

・検証の指標となる対話能力一覧表
・対話活動への意欲を見取る児童質問紙
・授業分析のための対話活動の実践記録

③国語科を中心とした各教科や領域等への対話活動の導入

・授業の中に、トークタイムと称する対話活動を設ける。

2 授業改善の視点

(1) 対話トレーニングの進め方

・週3回を1セットとして、一つのテーマについて対話させる。
・ペアトークを中心に、「質問する側」「答える側」といった役割分担をして行う。
・「自分なりに対話の流れを考える」「実際に対話する」「対話がどうであったか評価する」という流れを基本に行う。

(2) 対話能力一覧表の活用

・対話を成立させるための対話能力を、情意面、技能面(技能面はさらに、「聞く」「応じる」「話す」「運ぶ」という力に細分化される)、認知面に分けて、そ

れぞれの観点から学年ごとに評価規準を作成し、一覧表としてまとめたものである。対話トレーニングやトークタイムの評価規準は、必ずこの表から持ってくる。

(3) 対話活動(トークタイム)を取り入れた授業

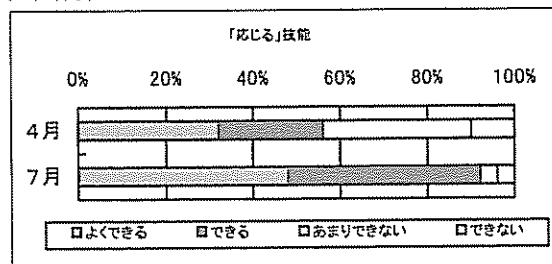
・国語科を中心に、各教科や領域の学習にトークタイムと称する対話活動の時間を設けている。対話を通して、学習目標にせまることをねらいとして行っている。その際、2人での対話をペアトーク、3人から5人の小集団での対話をグルーptーク、学級全体での対話をクラストークと呼んでいる。基本となるのはペアトークである。そこでの話し合いを活かして、次のグルーptークやクラストークに進み、考えを深めていく。

【トークタイムの進め方】

- ①話題をつかむ。
- ②話題について、自分の考えをもつ。
- ③話題についてペアで対話する。
- ④話題についてグルーptークまたはクラスで対話する。
- ⑤対話を通して、自分の考えがどのように深まったかをまとめる。
- ⑥本時の対話活動について、自己評価や相互評価をする。

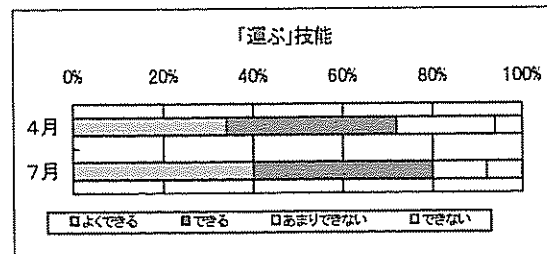
3 研究の成果と課題等

(1) 成果



これは、対話能力一覧表の「応じる」技能に対する児童の意識の変化を示したグラフである。4月に比べて、7月は肯定的評価の割合が大きく増えている。対話トレーニングは、特に「応じる」技能を育てる上で有効であることを示している。

(2) 課題



これは、対話能力一覧表の「運ぶ」技能に対する児童の意識の変化を示したグラフである。肯定的評価の割合が多少増加しているが、他の技能に比べると伸びが鈍い。これは、対話の目的意識の持たせ方に問題があったと考えられる。すなわち、目的が「一定時間続ける」とか「規定回数以上続ける」といった数値を強調し過ぎたものになりがちであったため、本来の目的である「相手を理解する」ということについて、しつ

かりと意識を持たせることができていなかったのではないかと考えられる。そのため途中で話が脱線しても、続けばそれでよしとして、軌道修正ができていく状況になってしまったのではないだろうか。

今後は集団づくりと関連させて、他者理解を深めることを重視した対話活動を仕組んでいく必要がある。

(3) 今後の改善方策等

これまでの研究から、対話活動を取り入れ、指導を工夫すれば、児童の話し合いの力を大きく伸ばすことができると言える。ただし、次のような点を特に配慮しなくてはならないと考える。

- ・対話の相手に対する共感と受容の心を忘れてはならないこと
- ・対話のテーマの選択をしっかりと考えること
- ・対話活動を適切に評価すること
- ・対話トレーニングと各教科や領域におけるトークタイムの関連を常に意識すること
- ・ペアトークやグループトークの運用に気をつけること
- ・どのような目標を与えて対話活動をさせればよいか配慮すること

4 実践事例

(1) 第5学年「対話トレーニング」における対話活動

①話題

・「給食の時間に音楽を流す」この提案に賛成ですか、反対ですか。

②つけたい対話能力

- ・自分の立場から論理を組み立てて話す。(話す技能)
- ・話の内容を深めるように話そうとする。(運ぶ技能)

③対話活動の記録

C1:〇〇くんは提案に賛成ですか、反対ですか。

C2:ほくは賛成です。

C1:それはなぜですか。

C2:静かだと楽しくないからです。

C1:けど、きのう私たちの班は、しりとりをしていて、すごく楽しかったじゃないですか。

相手の発言を受けて適切に切り返している。(応答の技能)

C2:あんまり笑いすぎて、給食を食べるのが遅くなったので、それはいけないと思いました。

C1:わかりました。もし、音楽を聴くのに夢中になっていたらどうするんですか。

C2:他の人が注意すれば、気づいて食べると思います。

C1:全員夢中になっていたらどうしますか。

C2:ちょっと質問を返します。それは先生もですか。

C1:はい、先生もです。

C2:そうだとすると、そこまでは考えていません。

C1:わかりました。それでは、〇〇くんの考えは一部賛成で、一部反対ということですか。

考えがどのように深まったかを確かめている。(運ぶ技能)

(2) 第5学年「道徳の時間」における対話活動

①話題

・「図書館で本を守るために、カウンターの中へ本を置くことにする」この提案に賛成ですか、反対ですか。

②つけたい対話能力

- ・自分の立場から論理を組み立てて話す。(話す技能)
- ・話の内容を深めるように話そうとする。(運ぶ技能)

③対話活動の記録

T:それでは、今度は「賛成の人」「反対の人」お互い聞きたいことがあったら言ってみてください。

C1:本棚に置いたら、こっそりとられてしまうんじゃないんですか。

C2:たくさんの方が近くにいるから大丈夫だと思います。

T:では、お互いの意見を聞き合って、自分の考えがどのように深まりましたか。意見が変わった人もいますね。

C3:ほくは、はじめは賛成だったけど、反対に変えます。それは、やっぱり図書館は、利用する人のことを大切にしないといけないと思ったからです。

話し合いを通じて考えを深めている。(運ぶ技能)

T:これはとても大事な意見ですね。では、カウンターの中に本を入れることは、本当に利用する人のことを大切にしていないのでしょうか。

C4:カウンターに入れることも、本を守るためだから、利用する人のためになっています。

(3) 成果と課題

○相手の発言を受けて、適切な切り返しをして話を深めていこうとする姿がかなり見られるようになってきた。

○二項対立の討論において、自分の立場から論理を組立てて話すことがかなりできるようになった。

○友達への発言に対する、付け加えや質問が増えてきた。

○対話トレーニングで学んだことを授業の中で活かしていこうとする姿が見られるようになってきた。

○相手の考えを認めた上で、さらに自分の考えを出していくという姿勢が身に付いてきた。

●論点がずれたり、些末なことにこだわったりした場合に、児童の力だけでは修正が効かないことがある。

●息の長い発言ができるようになってきたが、これは一つ間違えると、要点のはっきりしない発言が続いてしまう恐れを含んでいる。よい意味での息の長い発言とはどういうものかを、きちんと示すことで、発展的に取り組ませる必要がある。(発言に説得力を持たせるために、いくつかの例を挙げるといったこと)